

箱一杯 野菜を初荷で 子い送っ

(唱) お年玉送り 序い入れっ

遠矢耐多

初夢ん 鐘ん三ついい 目が覚めっ

(唱) 今年しや良か年し なるそな按配

満石うらら

初孫ん 可愛か手の平れ 大か夢

(唱) 将来く楽しんで 家族中が期待

上窪小絵

初出社 金髪ちネール 真赤け紅

(唱) どした事かよ 社内やざわめっ

二見愚楽満

球打っの ワンぬば願ごた 初詣

(唱) よっしや頑張れち ワンの神様

北村虎王

狂句味ってなに？

狂句味とは、人の心や社会、家庭の出来事などを捉えて、それをユーモラスにあるいは皮肉に、あるいは人情的に感じて十七文字に表現されたものが狂句味です。狂句味には『滑稽味』、『皮肉味』、『穿ち味』、『真実味・人間味』、『時事吟・季節吟』、『その他』の6種類あり、それらが、狂句の成り立ちや面白さに繋がっています。

唱で深まる郷句の世界

唱は詠み手の郷句に呼応して、選者が心に響いたこと、感じたことなどをユーモアを交えて読み上げたものです。唱があることによって、詠み手の句の世界がより広がり、分かりやすくなり、郷句がぐっと引き立つようになります。

郷句の魅力とは

郷句の魅力は大崎郷句会の皆さんに聞きました。遠矢耐多さんは「郷句の魅力は面白くて笑える所だと思っています。詠み手の日常生活の中で起こったことや感じたことが鹿兒島弁をとおして伝

わってきて、思わず腹を抱えて笑うこともあります。鹿兒島弁も郷句の魅力の一つです。昔ながらの鹿兒島弁は詠み手の思いをより身近に感じることができ、親しみが持てます」

西ノ園ひらりさんは「句会では、詠んだ句を持ち寄ってみんなで詠み合いをします。そのときのみんなで笑い合う時間が私は好きです。句会が終わった後の茶話会も毎回楽しみにしています」と話してくださいました。

今年は、大崎郷句で、日常生活で感じたことや伝えたいことを鹿兒島弁で表現する喜びと仲間と交流する楽しさを味わってみませんか。

